

京みやこの家に贈おくらむために真珠しんじゆを願ねがふ歌うた一首 井あは
せて短歌たんか

四一〇一番

珠洲すずの海人あまの 沖おきつ御神みかみに い渡わたりて 潜かづき取とる
といふ 鮑玉あわびたま 五百箇いほちもがも はしきよし 妻つま
の命みことの 衣手ころもでの 別わかれし時ときよ ぬばたまの
夜床片去よとこかたさり 朝寝髪あさねがみ 搔かきも梳けづらず 出いでて来こし
月日数つきひよみつつ 嘆なげくらむ 心こころなぐさに ほとと
ぎす 来鳴きなく五月さつきの あやめぐさ 花橘はなたちばなに 貫ぬ
き交まじへ 纒かづらにせよと 包つつみて遣やらむ